

私のしあわせ、私たちのしあわせ

今年水戸で日本女性会議が開かれる。21世紀、NPOが羽ばたくために欠かせないネットワークのひとつとして男と女のパートナーシップを考える絶好の機会となる。NPOにおける重要なネットワーク、手と手のつなぎ方について、茨城NPOセンター・コモンズの横田能洋さんと、常陸太田市商工会理事の渡辺彰さんのお二方にお話を伺った。今回は対談形式による特集。「男と女」・「内と外」・「私と私たち」という3つの手のつなぎ方について、これからのネットワークのあり方に目を向けてみよう。

(文/塩原 慶子)

男と女のつながり

塩原：今年水戸で日本女性会議が開かれます。NPOの中では男女のつながりはうまく行っているのでしょうか？

渡辺：戦後、日本の経済復興は男と女の性別役割分担を強化すること、男は仕事、女は家庭に専念することで成り立っていました。NPOではそういうことはないのですか？

横田：あるグループが立ち上がる時、その出発が相互扶助の団体、セルフヘルプ「ささえあいの団体は同じような人の集まりになりがちです。そのほうが当然目標も共通に立てやすいので、同じような層、男女が分かれるのは仕方がない面があります。

渡辺：よく耳にするのは、たとえば福祉のボランティアに関わっているのは女性が多いですよ。それがNPO法人格を持つとすると、理事は男性が多くなるそうですね。

横田：相互扶助として始まった団体が、NPOとしてやっていくとすると、社会の側からいろいろな期待がきます。NPOというのは団体のメンバーが主役なのではなくて社会が主役です。社会がこう望むからわれわれもこう行きましょう」と

と団体のメンバーが気づくようになると、おのずとメンバー構成を変えようという気になっていくと思います。

基本はセルフヘルプでいいのです。居場所つくりとしてスタートして、セルフヘルプがある程度進んだところNPOとして社会におすそ分けしていくんだということが大事。それがあかぬかぬかがNPOにはとても大切になります。

渡辺：NPOとして社会のニーズに気づいた時、似たもの同士のメンバーでは足りない部分の力を外に求めて行くようになるということですね。そういうときに男と女のパートナーシップが発揮されるといいですね。

内と外のつながり

塩原：ある種の運動が広がっていき過程で、広がりのはじめ、ええとしてより深くなって先鋭化したり仲良しグループ化していき、一般の市民の理解から遠ざかることがあります。渦が渦のまま深くさらに輪が広がるにはなにかいい手がありますか？

渡辺：NPOって茨城県三百万人のうちどれだけ浸透してい

「基本はセルフヘルプグループでいいのです」(横田さん)

私のしあわせ、私たちのしあわせ

るでしょうか？かなり少ないんじゃないですか？自分たちの事業をやりながらも、自分たちが発信することが大事なのでは？情報は発信するところに戻ってくると思いますから、そうすればプラスのフィードバックが帰ってきますよね。

横田：そうですね。当面は「モنز」のような団体が、知らせる努力をしないといけないでしょう。

「市民と手をつなぐゆとりを」(渡辺さん)

うが、市民の共感を呼び起こすのは生のNPOの姿なのです。当事者たちが知らせる姿勢を持ってくれること、そのためにこの情報誌もあるのですから。

私のしあわせ、私たちのしあわせ

塩原：一生懸命にがんばっている人たちがえてして疲れ果て、燃えつきていくのを見かけます。

渡辺：一生懸命やっている人がふと振り返ると、NPOという私たちの幸せを追求する場所にいながら私自身は子どもとふれあう時間やゆとりを持っていなかったかもしれないと気づく、何で私だけがこんなに……

横田：「やっていると疲れる 疲れると休む やすむと無責任といわれる だからがんばる また疲れる」という悪循環ですよね。「この悪循環でつぶれちゃうのを乗り越えるための、今のところ自分なりの答えは、思いっきり休むか仲間を見つけるこ

と、それしかありません。それから、自分が好きでこつこつこつとをやっているんだと思うこと、答えになってないかも知れませんが。(笑)

塩原：その答えは納得できません。どれだけ悪循環に耐えられるか、タフさが試されているだけでしかないように思えます。

渡辺：結論は一生懸命やっている人が、市民とどう手をつなげるかがポイントではないでしょう。手をつなぐようにも抱えている事業でいっばいっばいで、手をつなぐゆとりが無くなっていくのかも知れません。

横田：市民と手をつなぐということは、意識してないとなかなか出来ない。ついつい自分で全部やっちゃうから。自分でやらなくとも、多くの人に開きを持ってもらえる状況を用意すること、それが市民と手をつなぐことです。新しく関わってくれた人たちが小さなステップを越えることが、大きなよこびになるんです。

横田：具体的には、中心メンバーや事務局スタッフなんていう立場の人たちをひとりしないこと、これとっても大切です。予算とか、人が少なくても苦しくても2人なり3人複数いたほうが絶対いい。

渡辺：リーダー的役割をする人は、ものを頼むのが上手くないといけませんね。自分は何でも出来る人がすごいのではなくて、何でも人に頼めちゃうのがすごい人(笑)。頼み上手になりますよ。

横田能洋 茨城NPOセンター・コモنز常務理事兼事務局長。ハードな仕事の割には最近太ってダイエット中。34歳。

渡辺彰 般若心経が大好きな、味噌つくり職人。常陸太田市在住。鯨ヶ丘商店会事務局・常陸太田市商工会理事・47歳。

塩原慶子 編集スタッフ、46歳。感想：いくら頑張っても成果が見えないのに疲れと脂肪だけはしっかりたまるのはなぜ？その疑問が少しは晴れたかも。